

# 田中ゼミ

## 中国研修旅行体験記



法学部3年

しみず たかし  
清水貴志

### チベット、神秘的な！

それはまさに真珠を気化させたかのような美しさだった。湖はコバルトブルーに冴え、海拔4850mという高さに降り注ぐ灼熱の太陽は周囲を囲むヒマラヤ山脈の雪を溶かすかのように溶かした。私達の日常生活と同じなのは人が生き、そこに重力があるということだけだ。

メンバー全員が一番印象に残った場所が、ここチベットだった。チベットに来て雄大な風景と出くわした時、しばし呆然とその景色を眺める。地球、自然、そして人間の大きさについて無意識で考えていた。チベットには私達を感じたことのない神秘的な空間が存在している。

風景だけではない。チベットの仏教、人々にも私達は驚かされた。チベットの仏像は日本の穏やかな表情の仏

像とは正反対だ。鋭くて今にも襲いかかってくるような形相のものばかりであった。ポタラ宮（旧ダライラマの宮殿）の建築様式や内装は遠く山を隔てたインドからの影響を強く受けたチベット独特の雰囲気がかもし出していた。街の空気で感じて思ったこと。それは一概に仏教という宗教を一括りにしてイメージしてはならないということだ。さらに

驚嘆させられたのはチベットの人々の心肺能力だ。チベットの標高はだいたい3500m前後であり、私達がそこに降り立てば間違いない身体のだるさや頭痛などの高山病にかかる。空気がとても薄いため、階段を昇れば息切れをしてしまう状態である。しかしチベットの人々は平然と走りまわり、子供達は走るバスを追いかけるほどだ。

何故子供達はバスを追いかけてくるのだろうか。そこには中国が抱える一つの悩みが関係している。貧富の差である。子供達はお金をもらう

為に走っていたのだ。チベットに限らずこの旅行で訪れた都市ではどこでも、何らかの形でお金を要求してくる人々を見かけた。

### 躍進中国と東西格差

中国の急成長ぶりを勉強している私達は表面で物事を捉えがちであったが、実際躍進中国の裏側で東西格差が大きく生じているのだという現実を見せつけられ、とても複雑な気持ちになった。

このように生の中国を見て初めて気づくことはとても多かった。北京や上海などの近代化もそうだ。巨大ビルが立ち並び、地下鉄が通り、広い道路が走り、というように街の整備は完全に整っていた。改革開放、WTOの加盟、また北京においては二〇〇八年の北京オリンピックに向けてという意気込みが拍車をかけているが、それにしてもその規模は凄まじい。街の発展のスピードは速く、

# 研修旅行スケジュール

8/26 (月)	北京	市内見学 (天安門広場、故宮、頤和園、王府井 etc)、郊外見学 (万里の長城、明の十三陵 etc)、清華大学と交流、丸紅視察、京劇見学 etc
8/30 (金)		
8/31 (土)	敦煌	莫高窟、鳴沙山、月牙泉 (ラクダに乗る) etc
9/3 (火)	西安	市内、郊外見学 (華清池、兵馬俑博物館、大雁塔、西城門 etc) 寝台夜行列車にて成都へ
9/5 (木)		
9/8 (日)	成都	役所から西部大開発レクチャー受講、四川大学と交流、郊外見学 (都江堰、臥龍パンダ園 etc)
9/9 (月)	ラサ	(初日は高度順化のため休憩)、市内、郊外見学 (ポタラ宮、セラ寺、大昭寺、八角街 etc)、カマラ山登頂 (標高 4852 m)
9/11 (水)	成都	市内、郊外見学 (武侯祠、青羊宮、杜甫、三星堆博物館 etc)
9/14 (土)	南京	市内見学 (侵華日軍南京大虐殺記念館、中山陵、明孝陵、靈谷寺 etc) 列車にて上海へ移動
9/14 (土)	上海	上海の家庭にホームステイ、豫園見学 (湖心亭で喫茶)、企業視察 (日立電線、上海日光銅業有限公司、国有企業 etc)、雑技見学 etc

地元中国の人でさえも社会主義の看板を背負った資本主義と表現するほどだ。もはや社会主義のイメージは捨てざるを得ないといえる。

中国の実行力、スピードというものは素晴らしい。それを象徴するのは沿岸部と内陸部との歪みを解消させるために計画、実行された西部大

開発である。役所からのレクチャーを受け、街を歩くと北京、上海などの大都会との違いは感じない。本当に東西格差が深刻化しているのかと疑いたくなるほどであった。

## 中国人の自己意識

実際に中国に行つてその空気、変化を感じ、文化、歴史の素晴らしさを直に感じた。また反面現代中国の欠点をも実感した。この旅行行程は凝縮されていて忙しすぎると感じるほどだったが、これだけの短期間で多くの刺激を受け、各都市の比較ができる機会はそうないと思う。

中国人と接してみte感じたことは自己意識が強いということだ。声の大きさ、運転の荒さ、駅や空港での並び方や割り込みなど、これは一つのこと集中する性格の現れではないか。中国の学生をみると、一人一人が猛勉強している。清華大学と四川大学を見学し、その学生と交流してそう実感した。逆に考えれば日本の学生は怠けすぎなのかもしれない。「日本の学生は中国の学生に比べて元気、覇気が感じられない」。全行程を共にした中国人ツアーガイドのこの一言がとても重かった。素直に自分達の現状を受け止めるしかなかった。

物事を考えるとき自分の中の枠にとらわれず、現場や実情を知ることが重要なことだと思う。上海のホームステイで、中国人のホストはろくに中国語をしゃべれない初対面の私達を親切に笑顔で迎え入れてくれた。「中国」という固定概念が一方的な考えであったと気づいた。この旅行で感じ、学んだことはただ中国を築くというだけでなく、中国を知り、自分を知らなければならないことだった。物事を主観、客観の両側面から捉え考えることは大切だ。ホームステイで出されて夕食の家庭料理は、今まで食べてきた中国料理とは比べられないほど美味しかった。